



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2026. 6. 26
第398号 子ども数104名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



丁寧な振る舞い

校長 小森 康貴

春休みに校区を車で移動しているとき、中之口中学校の生徒が横断歩道を渡ろうとしていました。私は、すぐに車を停止しました。同様に、対向車線を走ってきた自動車も停止しました。そして、その生徒が横断歩道を渡りました。次の瞬間、その生徒が素晴らしい振る舞いをしました。初めに、対向車線で停止した自動車に向かって「気をつけ」をしてから深々と頭を下げました。次に、私の方を向いて「気をつけ」をしてから深々と頭を下げました。今まで、何度も横断歩道で車を停止したことはありますが、頭を下げない人もいれば、頭を下げたとしても、これほど丁寧な振る舞いは見たことがありませんでした。その生徒の振る舞いから「横断歩道で停止してくれてありがとうございます」という思いがとても伝わりました。丁寧な振る舞いが、相手に自分の思いをしっかりと伝える効果があると実感した出来事でした。

私も、横断歩道で車が停止してくれたときは、感謝の気持ちを込めて頭を下げます。しかし、この生徒のように「気をつけ」をしていませんし、深々と頭を下げていません。同じ感謝の気持ちを表す動作でも「気をつけ」と「深々」という丁寧さが加わることで、相手に伝える印象が大きく異なります。

私は、横断歩道で停止してもらった場合に限らず、様々な場面で丁寧な振る舞いをしてきたのか、今までの自分の振る舞いを振り返りました。すると、家庭での子どもへの振る舞いは、反省するべき点が多々ありました。例えば、家事をしながら子どもの音読を聞いていたり、テレビを見ている最中に子どもが話しかけてきたときに「今、大事な場面だから後にして」と言ったりしていました。教師であるにもかかわらず、1分で終わる音読にきちんと向き合っていなかったり、話を聴いてほしいという子どもの思いよりもテレビを優先させたりして、子どもにひどいことをしたと反省しています。

学校も、その生徒に学ぶ点があります。例えば、子どもが話しかけてきた場面で、担任が事務仕事をしながら、腕や脚を組みながら、目も合わせなかったら、子どもは悲しい気持ちになります。これでは全く「子どもファースト」ではありません。逆に、仕事の手を止めて、目線の高さを子どもに合わせて、しっかりと目を見て、頷きながら聴いたら子どもは嬉しいはずです。同じ「話を聴く」という動作でも、丁寧な振る舞いを心掛けることで、子どもに「きちんと話を聴いていますよ」という思いが伝わります。子どもと向き合うときに「この対応は丁寧な振る舞いか？」と振り返ることは「子どもファースト」の大切な視点といえます。この視点は、職員間でしっかり共有し実践していきます。

先日、出勤途中に、子どもたちが学校の近くの横断歩道を渡っていました。もちろん車を停止しました。子どもたちはきちんと私に頭を下げていました。やっぱり東小の子どもは素晴らしいなと感心していた次の瞬間、セーフティスタッフの方が私の方を向いて「気をつけ」をしてから深々と頭を下げました。春休みに見た中学生と全く同じ丁寧な振る舞いでした。私は、とても感動しました。やはり、春休みに見た中学生が素晴らしい振る舞いをした背景には、必ず手本になる大人がいるのだと確信しました。中之口は、素晴らしい地域です。